

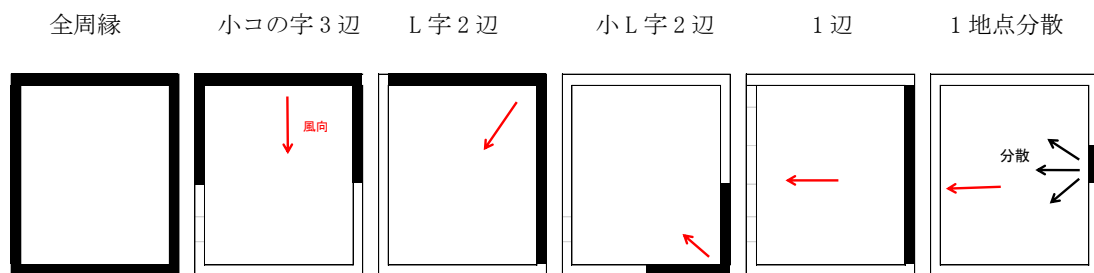


新規製剤 自己拡散型浮遊粒剤（FG 剤） 紹介

(2) 風上畦畔散布と有効成分の拡散

～ピラクロニルはバッチリ、バッチリ LX / デルタアタック、アップレZ、サラブレッド KAI 等に含まれる成分です～

【風上畦畔散布とは】 自己拡散型浮遊粒剤（FG）は、散布地点より 200m 以上拡散することから、均一な散布は必要ではなく、第 1 図のような圃場全周縁からの散布をはじめ、風上畦畔からの散布も可能である（概ね 2m 以上の風速がある場合）。言うまでもなく、散布のために畦畔を歩行する距離は短いほど散布時間は短く、散布時間は 1 人で 1 ha 当たり、4 辺畦畔散布では 15～12 分、L 字 2 辺散布では 7～8 分、1 辺散布では 3～4 分である。また、歩かない 1 地点から全量を放射状に分散させる分散散布も可能である。



第 3 図 FG 剤の風上畦畔からの散布模式図（■は散布を行う畦畔部位）

【風上 1 辺畦畔散布】 FG は、圃場の大きさに合わせて必要薬量を秤量して散布する（第 3 図上左）。第 3 図上中・右の散布は、1ha の 1 辺が 100m の正方形の圃場において、風上の 1 辺の畦畔からバッチリ FG を散布している（風上 1 辺畦畔散布）。その方法は、1 辺の畦畔の両端の各々 10m を外して、1 回の散布に 200g（5a 分）～800g（20a 分）をカップ等の容器に入れ、10m 程の間隔で、畦畔から 1m～2m 離して 1ha 分 4kg を散布した。散布時間は、1 人で 1ha 当たり、わずか 3 分 30 秒であった。散布 1 時間後の観察では、100m 先の対岸の畦畔岸に FG の担体など組成成分が漂着し、散布 96 時間後には圃場全体に有効成分がほぼ均一に拡がり、圃場全体に高い除草効果が得られた（第 3 図下右、第 4 図）。



第 3 図バッチリ FG の風上 1 辺畦畔散布

上左：FG の計量

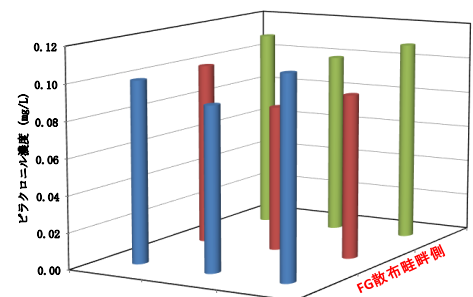
上中：バケツ中の FG をカップに入れる。

上右：畦畔から 1～2m 離して先に放り込む

（図は約 400g、約 10a 分相当）

下左：100m 先の畦畔岸に漂着した FG の組成物（散布 1 時間後）

下右：高い除草効果（雑草発生無し）

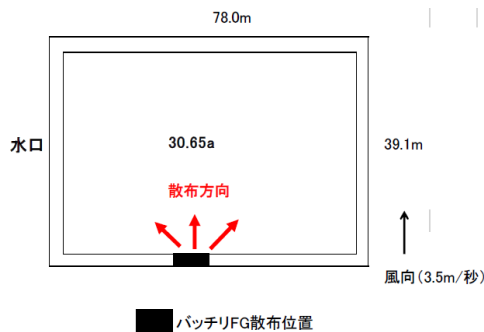


第 4 図 散布 96 時間後の有効成分ピラクロニルの田面水中濃度

【歩かない風上1地点からの分散散布(1地点分散散布)】FGは、歩かないで、風上畦畔の中央部の1地点から放射状(左・中央・右)に散布することも検討中である(第4,5図)。歩かないため、散布時間は、30a程度の圃場では1分にも満たない。散布72時間後の調査では、代表成分ピラクロニルは、圃場内にはほぼ均一に拡散し(第6図)、散布36日後の調査で、イネへの薬害は無く、高い除草効果が得られた(第7図)事例も確認している。畦畔1辺の数ヶ所から分散しての散布も可能であった。

試験概要(2019年)

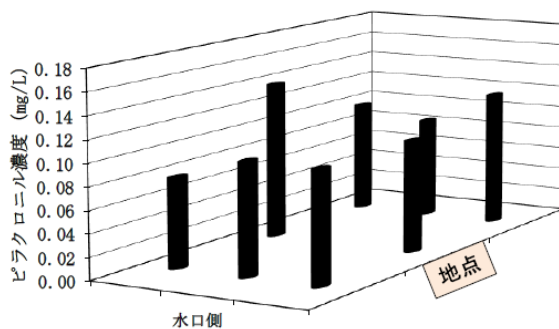
試験場所; 石川県松任市 品種: まっしぐら 代掻き日; 5月27日
 移植日: 5月30日 初期剤の使用: 無 バッチリFG散布: 6月5日



第4図 FGの散布位置



第5図 歩かない1地点からのFG散布



第6図 散布72時間後の田面水中のピラクロニル濃度



第7図 散布36日後の水田中央

なお、散布容器としては、以下のようなものが使用可能である(第8図)。



計量カップ 洗面器 手持ちスコップ 塵取り ボウル 柄杓

第8図 FG剤散布用の各種簡易容器